

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500220
法人名	社会福祉法人ふたば会
事業所名	グループホームふたばの森
所在地	新居浜市船木3001番地3
自己評価作成日	平成 25 年 5 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/38/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosyoCd=3890500220-00&PrefCd=38&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 7 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームふたばの森は、南を眺めれば、すぐ近くに昔のままの自然、北側には住宅地、学校、スーパーと「生活」する上では、とても恵まれた場所に開設することができました。いろんな世代のスタッフと利用者とともに「楽しく笑顔のある暮らし」をおくれるようにと支援しています。日々健康管理に留意し、栄養バランスに配慮した食事、水分補給、日常的な活動をさりげなく支援しています。そのためか事業開始から発熱される方もほとんどなくみなさんお元気に生活されています。事業所内で「生活」が完結することのないように積極的に外出するように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲は自然の木々に囲まれ静かで開設2年を経過した事業所である。開設時からの管理者と職員が丸となって、利用者の自由な生活や楽しみのある生活を支援している。職員は、利用者の力を生かしていくことを大切にしており、利用者一人ひとりの家事等の役割の支援や、生活リハビリを行うことによって身体機能の維持に努めている。日常的に畑の野菜の世話や散歩をしたり、季節の花見や温泉などに出かけたりするなど外出支援にも力を入れている。食事は手作りにこだわり、食の楽しみを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームふたばの森
(ユニット名)	どんぐり(1階)
記入者(管理者)	
氏名	高橋 俊道
評価完了日	平成 25 年 5 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業開始時に職員全員でケアのあり方、思いを話し合い、自分たちの言葉で事業理念、行動指針を作成した。事業所内に意識付けのために掲示し、日々振り返りを行うことで実践できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 法人が掲げる理念をもとにして、事業所独自の理念を開設時に職員で話し合い作成している。職員は、利用者が笑顔で家族のように暮らせることを目指しており、利用者が喜んでくれる声かけをするように努めている。また、会議室には利用者の生き生きとした笑顔の写真を多数飾っており、職員はその時々の瞬間を大事にした支援のあり方を再認識している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の店舗へ利用者とともに買い物に行ったり、地域行事等にも参加させて頂いている。今後、もっと交流が拡大できるように努めていきたい。</p> <p>(外部評価) 母体法人が船木地区に根付いており、地域との繋がりが強い。船木地区から利用者も数名おり、地域住民から利用者が一人で歩いていた場合には連絡があるなど、事業所に対する地域の関心度は高い。近隣の人が畑を貸してくれており、利用者が作った季節の野菜などの収穫物を持って行き交流している。散歩時には地域住民と交わす挨拶が増えてきている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 昨年は、市民向けの地域ケアネットワークの会議に参加させていただき、事業所での実践をもとに認知症の人の理解や支援方法を地域の人々に紹介させていただいたが今年度は左記のような機会がなかった。今後もこの取組を継続させていただきたいと考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 前回の外部評価の提案により、当GH内で開催するように変更された。報告や情報交換はできているが、もう少し話しやすく率直な意見交換ができる会議になるような工夫が必要ではないかと考えている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、元自治会長、民生委員、市担当者、施設長、管理者、職員などの参加を得て開催している。会議では事業所の活動報告を写真スライドで上映し、参加者に利用者のその時々顔を見てもらい、利用者の様子を把握してもらえよう工夫をしている。参加者から出された意見はサービス向上に活かすよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 業務等で市役所へ行くときは、必ず担当者との意見交換に努め、法制度の動向や条例変更等の情報交換、サービス提供における助言等を頂いている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の取組みや利用者の様子を把握している。事業所では市から派遣される介護相談員の受け入れをしており、利用者はよき話し相手としていい刺激になり、職員は第三者の目から見た利用者の状況を知る機会として、サービス向上に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日常的に職員同士で話し合い「身体拘束をしないケアについての実践」について確認し合うように努めている。当然、玄関の常時開錠を含め身体拘束は行っていないが、言葉や抗精神薬での拘束の危険性や防止のため、今後も定期的に勉強会を開き、意識が劣化しないように取り組んで行きたいと考えている。	
			(外部評価) 玄関や門扉は施錠をしておらず、居室の窓も自由に開けることができ、利用者は自由に出入りすることができる。管理者は、利用者に制約を与えることが不安な気持ちにさせると考えており、職員は理解して支援をしている。職員が利用者の見守りなどのスキルを上げることで、一人ひとりに応じた自由な生活が送れるよう一丸となって取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に外部研修への参加や内部研修を開催し、学ぶ機会をもうけ、虐待はもとより「不適切なケア」についての理解を深め発生防止に取り組んでいきたいと考えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 開設時に学ぶ機会を設けたが、現在、制度を活用している利用者はいない。活用必要な利用者に備え、円滑に制度活用ができるようにシステム作りを行っていきたいと考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結時には、時間をかけて重要箇所を十分説明するように努めている。家族等の不安や疑問点にはその都度説明を行い理解・納得していただくように配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族からの意見、要望等は面会時などの来所時に個別に確認するように努めている。今後、家族参加の行事及び家族会等を開催し気軽に意見交換ができる場を確保していきたいと考えている。	
			(外部評価) 職員は家族の訪問時に日頃の利用者の様子を報告し、要望を聞くようにしている。利用者は、家族の訪問時には喜びだけでなく、感情をぶつけてしまう場合もあり、職員は日頃から利用者と家族との信頼関係が築けるよう努めている。また、利用者や家族の互いの思いをうまく伝えることができるよう配慮している。今後は、家族の参加できる行事を増やしていくことを計画している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ユニット会、職員会を定期的を開催し、その中で提案された意見を可能な限り運用に反映できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 事業所開設1か月前から職員研修を行い、チームワークや意見を出し合う関係づくりをしている。管理者と職員は一丸となり、事業所を創っていく意識で取り組んでいる様子が伺える。管理者は、職員から出された意見を施設長等と話し合い、先を見越した備品を購入するなど反映している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は週に2、3回は事業所を訪れ、職員一人ひとりとの関わりを大切にし、やりがいや働きやすい職場づくりに努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内の研修や職場外の研修には積極的に参加するようにしている。OJTの取組についても今後の課題と考えシステムづくりに取り組んでいきたい。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 地域密着型サービス協会の相互研修事業に参加させていただき、同業者との交流や勉強の機会をいただいている。今度は市内の事業所との交流も検討していきたいと考えている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前に複数職員で訪問し、本人の困っていること、不安なこと、要望等の確認を行っている。本人さんをよく理解することに努め、グループホーム入居という環境変化からくるダメージを少しでも軽減できるように職員の配慮事項や居室等環境づくりに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の訪問時に家族等に困っていること、不安なこと、要望を確認している。また、入居前に事業所へ事前見学にこられた際にも上記のような確認を行い円滑に入居できるような支援に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談時に「今一番困っていること」をお聞きするようにしている。事業所として対応可能なことについては遅滞なく対応を行い、対応困難な場合については他事業所等の活用情報の提供や紹介調整を行っている。今後も初期対応の支援が円滑にできるように情報収集とネットワークづくりに努めていきたいと考えている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で利用者ができることは、なるべく自分でできるように支援している。毎食の調理下準備や共用場所の清掃などできる範囲で実施されている。今後も利用者が主体的に生活できるような取組に努めていきたいと考えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には、日常の生活状況の事や現状などを毎月お手紙で伝えるなどして安心していただけるように努めている。また、来所された場合は利用者と家族がよりよい関係になるように配慮している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事や祭りへの参加など、これまでの生活の中で行っていたことを取り入れるように努めている。入居前の行きつけの散髪屋やパーマ屋、昔通ったお店等への外出支援も行い馴染みの関係の継続支援に努めている。	
			(外部評価) 利用者の馴染みの理美容室に行けるよう支援しており、店員と昔話を楽しんでいる。職員は、店員が気づく利用者の状況を知らせてもらうことで、日々の支援に繋げている。また、利用者と一緒に近所にある自宅に行ったり、家族の希望によりお墓参りに行けるよう支援するなど、馴染みの人や場との関係継続の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が生活の中で支え合うような働きかけに努めている。また、利用者間がトラブルにならないようにその都度職員が間に入りながら支援している。利用者同士が楽しく生活できるように今後も個々の状態を把握できるように努めていきたい。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 事業開始から現在まで1名の退居者があったが、そのご家族から定期的に電話等での相談をいただいている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者個々に話を聞き、なるべく一人ひとりの思いを取り入れるように努めている。すべての事を取り入れることは困難であるが、少しずつでも実現にとりくんでいきたい。	
			(外部評価) 管理者と職員は、利用者の突発的な行動は生活歴から起こる場合があると考えており、利用者や家族から生活歴を聞き把握して支援するよう努めている。利用者が行う家事や役割を大切にしており、自らの意志でできるように声かけを工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員は生活歴などを確認し把握するように努めている。また、本人や家族との日々の会話の中からこれまでの生活状況、環境を聞き取れるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの現状を職員間で把握共有できるように常に言葉かけを行いながら、一人ひとりの状態に合わせた対応ができるようにこころがけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 各ユニット会やカンファレンスでは職員間で意見を出し合い介護計画に反映していけるように努めている。今後は本人、家族等もカンファレンスに参加していただき取り組んでいきたいと考えている。	
			(外部評価) 利用者のアセスメントは、職員全員がそれぞれに記入し、話し合って介護計画を作成している。計画は、利用者が主体となるよう利用者の視点で分かりやすい言葉を使い目標を作成している。毎日、生活健康管理表に介護計画と健康面のチェックをして1週間ごとに評価し、モニタリングに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者ごとの生活状況について記録様式を工夫して、職員間での情報共有が容易になるように工夫し介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 生活を支えるということは、支援の枠組みを広げることと考えている。柔軟な支援や多機能化のためには事業所のみならず、運用についての協力者の発掘に努めていきたいと考えている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 個別に活用可能な地域資源を把握し本人が主体的に活用できるように支援して行きたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医については入居前から本人の病状をよく 知っているかかりつけ医に適切な医療が受けられるよ うに継続的に支援している。また、かかりつけ医から の情報交換から医療的観察事項や介護上の注意点等の 助言をいただいている。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を受診することができ る。かかりつけ医は入居前から利用者の病状経過を把 握しており、信頼関係もあることから継続して受診で きるよう支援している。家族の協力を得て受診するこ とを原則としているが、職員が受診介助を行う場合も 多い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 近接の特別養護老人ホームから週3回程度、看護職員 に來所して頂き、利用者の健康状態の報告、相談、助 言を頂き利用者ごとに適切な受診や看護を受けられよ うに支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院した場合は、文書にてグループホームで の生活の状況や入院までの経緯、配慮していただきた い申し送り事項等を報告している。また、円滑に入退 院ができるように定期的に医療機関のソーシャルワー カーと情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期ケアについては実践事例がまだない。 今後、適切な対応ができるように併設特養の看護師と の連携にて勉強会の開催を行いスキルアップに努め るとともに、本人、家族との意向確認を行い終末期に備 えていきたいと考えている。	現在は、重度化や終末期に向けたケアについて事業所 で対応できる体制を整備すべく協力要請を行っている 途中である。日頃からの生活支援の延長に終末期ケア があることを踏まえ、医療連携体制の整備やチームで の支援体制ができるよう話し合いを進めていくことを 期待したい。
			(外部評価) 事業所は利用者の重度化に対応する指針を作成してい るが、現在、看護師や24時間対応の医療機関との協 力体制が整っていない。現段階では入居時に利用者や 家族に事業所としてできる対応を説明している。管理 者は、重度化や終末期のケアの体制整備だけでなく、 職員教育の重要性を認識しており、勉強会の実施を検 討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当や初期対応については勉強会を行ったが実践力については不安が残る。今後の課題として消防の救急救命講習等に定期的に参加し実践力を身につけていきたいと考えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練等は実施しているが、勤務上すべての職員が体験しているわけではない。今後、定期的な訓練を実施し職員個々のスキルアップをめざしたい。近設特養とともに地域との協力体制を築いているがさらなる強化をめざしたい。	
			(外部評価) 1階の居室の窓から、外に避難できる建物構造になっている。防災訓練は消防署の協力を得て実施しており、担架の使用方法や消火器使用の訓練を行うなど、職員への災害に対する意識を高めている。利用者が、地震の場合に机の下に潜ることができるか、避難する場合に非常階段を利用することができるかなど、実際に行って確認している。飲料水や食品の備蓄品を3日分用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 訪室時や排泄誘導時、入浴支援時などプライバシーを損ねないような言葉かけには常に意識しているが、今後も個々を尊重していくように努めていきたいと考えている。	
			(外部評価) 職員は、利用者を敬い、穏やかに柔らかに接している。細やかな声かけやスキンシップを図り、利用者が現在の状況に困惑しないように配慮して対応している。利用者の生活空間には、できるだけ書類等は持ち込まないよう配慮しており、生活空間と事務用空間をはっきりと区切り、個人情報漏れのないよう管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の様々な場面で自己決定・選択の機会を提供するように努めている。また、本人の思いを言葉に出せるような信頼関係を築けるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりのペースに合わせ生活がおくれるように努めているが、職員側の都合に合わせてしまう事がないように、今後も常に意識していきたいと考えている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 女性の入居者はお化粧されるなど、その人らしいおしゃれを楽しめるように努めている。また、本人が希望する美容院へ行けるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者とともに食事の準備から片付けまで実施している。利用者それぞれができることを無理なく実施できるように配慮し支援するように今後も努めていきたい。	
			(外部評価) 職員はユニット毎に献立、買い物、調理を行っており、畑で採れた野菜や季節の食材を使うことにこだわって3食手作りの食事を提供している。利用者は、職員と一緒に野菜を切ったり盛り付けをしたり、食器を洗うなどできることを手伝っている。手巻き寿司やパンバイキングなど、その場で作れるメニューを取り入れるなど利用者が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養のバランスや糖尿病の方の事も考え献立を立案している。また、毎食時の摂取量や水分量を確認し記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 言葉かけを行い口腔ケアを行っている。現状はほとんどの入居者が一部介助で行えているが、今後も毎食後に確実にいけるように実践していく。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレでの排泄が行えるように支援している。オムツ使用者に対しても、日中は紙パンツ等を使用し排泄記録表や排泄徴候の観察から誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握している。ユニットに3つあるトイレには、手すりや排泄介助バーが設置され、利用者の身体状況に応じてトイレを使い分けている。汚物処理室が完備されており、ポータブルトイレ使用後の洗浄等がしやすく、感染予防対策にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医の処方にて緩下剤を使用している方もいるが、なるべく自然排便ができるように水分摂取量にも注意しヨーグルトやオリゴ糖、ブルーベリーなどを摂取していただき個々に合わせた対応をこころがけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々の希望に合わせた入浴にこころがけている。時間帯についても入居者に尋ね、その人が入りたい時間になるべく入浴できるように努めている。利用者に応じて入眠前に入浴の実施も対応している。	
			(外部評価) 基本的には午後から入浴することができ、利用者の希望に応じた支援も行っている。脱衣室はカーテンで仕切ることができ、プライバシー保護がなされている。浴室には家庭浴槽が設置され、バスボード等の福祉用具を使用して、安全に入浴できる環境を整えている。水虫や浮腫のある利用者には、足浴を実施して、清潔保持や安楽に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入眠時間や起床時間については決めておらず個々の状況に合わせた対応に努めている。日中についても居室で休息したい方は自由に休めるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の種類や副作用についての情報はファイルに綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。また、処方薬が変更になった場合は必ず申し送り、状態の変化の有無を確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々に合わせた楽しみがもてるように生活の中で役割を持てるように努めている。職員の都合で役割をもたせる事にならないように努めていきたいと考えている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望や状況に応じて外出できるように取り組んでいる。今後も個別や共同で外出できる機会を増やしていきたいと考えている。	
			(外部評価) 職員は利用者の認知症が徐々に進行することを意識して支援している。1日1日を大切に利用者が元気で笑顔が出るうちに、様々な楽しい時間を過ごしてもらいたいと考え外出支援をしている。利用者の希望に応じて、温泉に出かけたり花見に出かけたりと外出の機会を多くするよう心がけている。玄関先のベンチに座って外を眺めたり、畑の野菜の世話や散歩に出たりして、日常的に屋外に出て、外出を楽しめるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の意向がある場合は、家族に依頼し所持できるように依頼している。外出時、買い物等で使える機会を増やしていけるように支援していきたいと考えている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話については、本人の希望時には使用できるように配慮しているが、諸処の事情で全て要求どおりには対応できていない。今後、なるべく本人の希望がとおるよう工夫していきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) なるべく家庭生活と同じような環境になるようにこころがけ季節の花を飾ったりしながら工夫している。また、共用の空間でも個々に合わせてその都度混乱を軽減できるよう物品の配置を工夫している。</p> <p>(外部評価) 管理者は、事業所建築の設計段階から携わり、シンプルかつ機能的な空間となるよう配慮している。1階と2階の造りは全く同じにしており、利用者と職員ともに混乱しないよう配慮されている。食堂と居間は分かれており、利用者は自分の過ごしたい思い思いの場所で過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 居間等の共有空間では、利用者ごとに居場所の認識が固定されているが、特定はされておらず、その日の状況に応じて利用者思い思いで過ごせるような居場所になるように工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) タンスや布団などは今まで使い慣れた物を持参していただいている。居室空間は個々が安らげる場所になるように今後も工夫していきたいと考えている。</p> <p>(外部評価) ベッドは今後の利用者の身体状況の変化を見越して、事業所で準備している。居室にはタンス、食器棚、机、テレビなど利用者の思い思いの物を自宅から持ち込むことができる。壁には家族写真を飾ったり位牌を置くなど、利用者にとって大切な落ち着きのある空間となるように工夫している。マットタイプのナースコールが設置されており、必要な利用者には使用できるようにしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者の方がなるべく安全に生活でき、家庭と同じような環境になるようにこころがけている。今後も生活物品の配置に配慮し生活動作を誘発するような工夫を行い自立生活を支援していきたいと考えている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500220
法人名	社会福祉法人ふたば会
事業所名	グループホームふたばの森
所在地	新居浜市船木3001番地3
自己評価作成日	平成 25 年 5 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/38/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosvoCd=3890500220-00&PrefCd=38&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 7 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームふたばの森は、南を眺めれば、すぐ近くに昔のままの自然、北側には住宅地、学校、スーパーと「生活」する上では、とても恵まれた場所に開設することができました。いろんな世代のスタッフと利用者とともに「楽しく笑顔のある暮らし」をおくれるようにと支援しています。日々健康管理に留意し、栄養バランスに配慮した食事、水分補給、日常的な活動をさりげなく支援しています。そのためか事業開始から発熱される方もほとんどなくみなさんお元気に生活されています。事業所内で「生活」が完結することのないように積極的に外出するように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲は自然の木々に囲まれ静かで開設2年を経過した事業所である。開設時からの管理者と職員が一丸となって、利用者の自由な生活や楽しみのある生活を支援している。職員は、利用者の力を生かしていくことを大切にしており、利用者一人ひとりの家事等の役割の支援や、生活リハビリを行うことによって身体機能の維持に努めている。日常的に畑の野菜の世話や散歩をしたり、季節の花見や温泉などに出かけたりするなど外出支援にも力を入れている。食事は手作りにこだわり、食の楽しみを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームふたばの森

(ユニット名) 2階(くるみ)

記入者(管理者)

氏名 高橋 俊道

評価完了日 平成 25 年 5 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業開始時に職員全員でケアのあり方、思いを話し合い、自分たちの言葉で事業理念、行動指針を作成した。事業所内に意識付けのために掲示し、日々振り返りを行うことで実践できるように努めている。	
			(外部評価) 法人が掲げる理念をもとにして、事業所独自の理念を開設時に職員で話し合い作成している。職員は、利用者が笑顔で家族のように暮らせることを目指しており、利用者が喜んでくれる声かけをするように努めている。また、会議室には利用者の生き生きとした笑顔の写真を多数飾っており、職員はその時々の瞬間を大事にした支援のあり方を再認識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の店舗へ利用者とともに買い物に行ったり、地域行事等にも参加させて頂いている。今後、もっと交流が拡大できるように努めていきたい。	
			(外部評価) 母体法人が船木地区に根付いており、地域との繋がりが強い。船木地区から利用者も数名おり、地域住民から利用者が一人で歩いていた場合には連絡があるなど、事業所に対する地域の関心度は高い。近隣の人が畑を貸してくれており、利用者が作った季節の野菜などの収穫物を持って行き交流している。散歩時には地域住民と交わす挨拶が増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 昨年は、市民向けの地域ケアネットワークの会議に参加させていただき、事業所での実践をもとに認知症の人の理解や支援方法を地域の人々に紹介させていただいたが今年度は左記のような機会がなかった。今後もこの取組を継続させていただきたいと考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 前回の外部評価の提案により、当GH内で開催するよ うに変更された。報告や情報交換はできているが、も う少し話しやすく率直な意見交換ができる会議になる ような工夫が必要ではないかと考えている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、元自治会長、民生委 員、市担当者、施設長、管理者、職員などの参加を得 て開催している。会議では事業所の活動報告を写真ス ライドで上映し、参加者に利用者のその時々顔を見 てもらい、利用者の様子を把握してもらえよう工夫 をしている。参加者から出された意見はサービス向上 に活かすよう努めている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 業務等で市役所へ行くときは、必ず担当者との意見交 換に努め、法制度の動向や条例変更等の情報交換、 サービス提供における助言等を頂いている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の取 組みや利用者の様子を把握している。事業所では市か ら派遣される介護相談員の受け入れをしており、利用 者はよき話し相手としていい刺激になり、職員は第三 者の目から見た利用者の状況を知る機会として、サー ビス向上に活かしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日常的に職員同士で話し合い「身体拘束をしないケア についての実践」について確認し合うように努めてい る。当然、玄関の常時開錠を含め身体拘束は行ってい ないが、言葉や抗精神薬での拘束の危険性や防止のた め、今後も定期的に勉強会を開き、意識が劣化しない ように取り組んで行きたいと考えている。</p> <p>(外部評価) 玄関や門扉は施錠をしておらず、居室の窓も自由に開 けることができ、利用者は自由に出入りすることがで きる。管理者は、利用者に制約を与えることが不安な 気持ちにさせると考えており、職員は理解して支援を している。職員が利用者の見守りなどのスキルを上げ ることで、一人ひとりに応じた自由な生活が送れるよ う一丸となって取り組んでいる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に外部研修への参加や内部研修を開催し、学ぶ機会をもうけ、虐待はもとより「不適切なケア」についての理解を深め発生防止に取り組んでいきたいと考えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 開設時に学ぶ機会を設けたが、現在、制度を活用している利用者はいない。活用必要な利用者に備え、円滑に制度活用ができるようにシステム作りを行っていきたいと考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結時には、時間をかけて重要箇所を十分説明するように努めている。家族等の不安や疑問点にはその都度説明を行い理解・納得していただくように配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族からの意見、要望等は面会時などの来所時に個別に確認するように努めている。今後、家族参加の行事及び家族会等を開催し気軽に意見交換ができる場を確保していきたいと考えている。	
			(外部評価) 職員は家族の訪問時に日頃の利用者の様子を報告し、要望を聞くようにしている。利用者は、家族の訪問時には喜びだけでなく、感情をぶつけてしまう場合もあり、職員は日頃から利用者と家族との信頼関係が築けるよう努めている。また、利用者や家族の互いの思いをうまく伝えることができるよう配慮している。今後は、家族の参加できる行事を増やしていくことを計画している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会、職員会を定期的を開催し、その中で提案された意見を可能な限り運用に反映できるように努めている。 (外部評価) 事業所開設1か月前から職員研修を行い、チームワークや意見を出し合う関係づくりをしている。管理者と職員は一丸となり、事業所を創っていく意識で取り組んでいる様子が伺える。管理者は、職員から出された意見を施設長等と話し合い、先を見越した備品を購入するなど反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は週に2、3回は事業所を訪れ、職員一人ひとりとの関わりを大切にし、やりがいや働きやすい職場づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の研修や職場外の研修には積極的に参加するようにしている。OJTの取組についても今後の課題と考えシステムづくりに取り組んでいきたい。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の相互研修事業に参加させていただき、同業者との交流や勉強の機会をいただいている。今度は市内の事業所との交流も検討していきたいと考えている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に複数職員で訪問し、本人の困っていること、不安なこと、要望等の確認を行っている。本人さんをよく理解することに努め、グループホーム入居という環境変化からくるダメージを少しでも軽減できるように職員の配慮事項や居室等環境づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の訪問時に家族等に困っていること、不安なこと、要望を確認している。また、入居前に事業所へ事前見学にこられた際にも上記のような確認を行い円滑に入居できるような支援に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談時に「今一番困っていること」をお聞きするようにしている。事業所として対応可能なことについては遅滞なく対応を行い、対応困難な場合については他事業所等の活用情報の提供や紹介調整を行っている。今後も初期対応の支援が円滑にできるように情報収集とネットワークづくりに努めていきたいと考えている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者一人ひとりの「できる」こと、能力に応じた家事作業と一緒に実施することで、共に暮らすもの同士という関係に近づこうと努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員だけでなく、家族にもできるだけ協力して頂き、ともに本人を支えることができるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事や祭りへの参加など、これまでの生活の中で行っていたことを取り入れるように努めている。入居前の行きつけの散髪屋やパーマ屋、昔通ったお店等への外出支援も行い馴染みの関係の継続支援に努めている。	
			(外部評価) 利用者の馴染みの理美容室に行けるよう支援しており、店員と昔話を楽しんでいる。職員は、店員が気づく利用者の状況を知らせてもらうことで、日々の支援に繋げている。また、利用者と一緒に近所にある自宅に行ったり、家族の希望によりお墓参りに行けるよう支援するなど、馴染みの人や場との関係継続の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者ごとの性格、その場面、場面の感情などの変化を観察、理解し、利用者同士が良好な関わりを持てるようにさりげない支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 事業開始からまだ退居された方はいないが、退居した場合であっても気軽に連絡・相談ができるような関係構築に努めていきたいと考えている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人に希望や要望を尋ね実現できるよう職員間で話し合い計画を行っているが、すべてを実現するのは困難である。できることから実践し、少しずつ実現に向けてとりくんでいきたいと考えている。	
			(外部評価) 管理者と職員は、利用者の突発的な行動は生活歴から起こる場合があると考えており、利用者や家族から生活歴を聞き把握して支援するよう努めている。利用者が行う家事や役割を大切にしており、自らの意志でできるように声かけを工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員は生活歴などを確認し把握するように努めている。また、本人や家族との日々の会話の中から今までの生活状況、環境を聞き取れるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりのその日の心身の状態を表情やバイタル、会話などから把握するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員会やユニット会などで職員の意見を出してもらい介護計画に反映できるように努めている。	
			(外部評価) 利用者のアセスメントは、職員全員がそれぞれに記入し、話し合って介護計画を作成している。計画は、利用者が主体となるよう利用者の視点で分かりやすい言葉を使い目標を作成している。毎日、生活健康管理表に介護計画と健康面のチェックをして1週間ごとに評価し、モニタリングに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の経過記録、生活状況について記録し把握するように努めている。1週間ごとに評価し変化徴候に対して早期に発見、対応できるように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 生活を支えるということは、支援の枠組みを広げることと考えている。柔軟な支援や多機能化のためには事業所のみならず、運用についての協力者の発掘に努めていきたいと考えている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 個別に活用可能な地域資源を把握し本人が主体的に活用できるように支援して行きたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医については入居前から本人の病状をよく 知っているかかりつけ医に適切な医療が受けられるよ うに支援している。また、かかりつけ医からの情報交 換から医療的観察事項や介護上の注意点等の助言をい ただいている。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を受診することができ る。かかりつけ医は入居前から利用者の病状経過を把 握しており、信頼関係もあることから継続して受診で きるよう支援している。家族の協力を得て受診するこ とを原則としているが、職員が受診介助を行う場合も 多い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 近接の特別養護老人ホームから週3回程度、看護職員 に來所して頂き、利用者の健康状態の報告、相談、助 言を頂き利用者ごとに適切な受診や看護を受けられよ うに支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院した場合は、文書にてグループホームで の生活の状況や入院までの経緯、配慮していただきた い申し送り事項等を報告している。また、円滑に入退 院ができるように定期的に医療機関のソーシャルワー カーと情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期ケアについては実践事例がまだない。 今後、適切な対応ができるように併設特養の看護師と の連携にて勉強会の開催を行いスキルアップに努め るとともに、本人、家族との意向確認を行い終末期に備 えていきたいと考えている。	
			(外部評価) 事業所は利用者の重度化に対応する指針を作成してい るが、現在、看護師や24時間対応の医療機関との協 力体制が整っていない。現段階では入居時に利用者や 家族に事業所としてできる対応を説明している。管理 者は、重度化や終末期のケアの体制整備だけでなく、 職員教育の重要性を認識しており、勉強会の実施を検 討している。	現在は、重度化や終末期に向けたケアについて事業所 で対応できる体制を整備すべく協力要請を行っている 途中である。日頃からの生活支援の延長に終末期ケア があることを踏まえ、医療連携体制の整備やチームで の支援体制ができるよう話し合いを進めていくことを 期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当や初期対応については勉強会を行ったが実践力については不安が残る。今後の課題として消防の救急救命講習等に定期的に参加し実践力を身につけたいと考えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練等は実施しているが、勤務上すべての職員が体験しているわけではない。今後、定期的な訓練を実施し職員個々のスキルアップをめざしたい。近設特養とともに地域との協力体制を築いているがさらなる強化をめざしたい。	
			(外部評価) 1階の居室の窓から、外に避難できる建物構造になっている。防災訓練は消防署の協力を得て実施しており、担架の使用方法や消火器使用の訓練を行うなど、職員への災害に対する意識を高めている。利用者が、地震の場合に机の下に潜ることができるか、避難する場合に非常階段を利用することができるかなど、実際に行き確認している。飲料水や食品の備蓄品を3日分用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 訪室時や排泄誘導時、入浴支援時などプライバシーを損ねないような言葉かけには常に意識しているが、今後も個々を尊重していくように努めていきたいと考えている。	
			(外部評価) 職員は、利用者を敬い、穏やかに柔らかに接している。細やかな声かけやスキンシップを図り、利用者が現在の状況に困惑しないように配慮して対応している。利用者の生活空間には、できるだけ書類等は持ち込まないよう配慮しており、生活空間と事務用空間をはっきりと区切り、個人情報漏れのないよう管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者ごとの行きたい所、したい事など、日々の会話の中で聞きとりを行っているが、なかなか実現することが難しい。1つずつ確認し計画し実行して行けるように取り組んで行きたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のその日の状態を観察し、外出、買い物などの気分転換の機会を設けている。一人ひとりのペースを崩さない様に職員間でこころがけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服は、毎日同じものにならないようにさりげなく支援をしている。散髪等は家族の協力を得てなじみの美容室等へ行けるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事を作るところから、利用者とともに準備を行い参加参加されている。後片付けも積極的に参加できるような雰囲気づくりに配慮している。メニューは利用者からの「食べたいもの」を取り入れるように配慮している。	
			(外部評価) 職員はユニット毎に献立、買い物、調理を行っており、畑で採れた野菜や季節の食材を使うことにこだわって3食手作りの食事を提供している。利用者は、職員と一緒に野菜を切ったり盛り付けをしたり、食器を洗うなどできることを手伝っている。手巻き寿司やパンバイキングなど、その場で作れるメニューを取り入れるなど利用者が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 摂取カロリーや栄養バランスを考えた献立を作成するように努めている。摂取量も一人ひとりの摂取量の把握に努め、量をさりげなく調整している。水分補給はあきがないように色々な飲み物を用意し選択していただき、こまめに摂取してもらえるように配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 言葉かけを行い口腔ケアを行っている。現状はほとんどの入居者が一部介助で行えているが、今後も毎食後に確実にいけるように実践していく。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレでの排泄が行えるように支援している。オムツ使用者に対しても、日中は紙パンツ等を使用し排泄記録表や排泄徴候の観察から誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握している。ユニットに3つあるトイレには、手すりや排泄介助バーが設置され、利用者の身体状況に応じてトイレを使い分けている。汚物処理室が完備されており、ポータブルトイレ使用後の洗浄等がしやすく、感染予防対策にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医から緩下剤を処方されている場合もあるが、必要十分な水分摂取量の確保とヨーグルト、バナナジュースなどの提供で排便を促している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の入りたい時間に入浴ができるように工夫している。要望のない利用者に対しては、こちらから言葉かけを行い働きかけている。	
			(外部評価) 基本的には午後から入浴することができ、利用者の希望に応じた支援も行っている。脱衣室はカーテンで仕切ることができ、プライバシー保護がなされている。浴室には家庭浴槽が設置され、バスボード等の福祉用具を使用して、安全に入浴できる環境を整えている。水虫や浮腫のある利用者には、足浴を実施して、清潔保持や安楽に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間眠れていない方へは、短時間の昼寝を促し身体や気分を休めるように配慮している。起床や入眠について本人の希望に合わせた対応を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の種類や副作用についての情報はファイルに綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。また、処方薬が変更になった場合は必ず申し送り、状態の変化の有無を確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 外出、食事の準備、散歩など日々の中でそれぞれできる事をしたい時に行ってもらえるように言葉かけを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の希望に合わせた外出支援を心掛けているが、職員の勤務状況により出来ていない時もある。全体での外出行事は月に1度は取り入れているが、今後は個々の希望に対応できるように工夫していきたいと考えている。 (外部評価) 職員は利用者の認知症が徐々に進行することを意識して支援している。1日1日を大切に利用者が元気で笑顔が出るうちに、様々な楽しい時間を過ごしてもらいたいと考え外出支援をしている。利用者の希望に応じて、温泉に出かけたり花見に出かけたりと外出の機会を多くするよう心がけている。玄関先のベンチに座って外を眺めたり、畑の野菜の世話や散歩に出たりして、日常的に屋外に出て、外出を楽しめるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の意向やお金を持つことで安心される方には所持できるように支援し、定期的に本人と残金の確認を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人から電話をしたいとの要望があれば、直接家族へ通話ができるように支援したり、本人の意向を職員が伝えたりとの支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花や馴染みの祭りのポスターなどを飾り会話のキッカケ作りに使用している。記録物などの利用者の生活に関係ないものは、利用者の目の届かないところに保管し生活の場としての雰囲気を壊さないように配慮している。</p> <p>(外部評価) 管理者は、事業所建築の設計段階から携わり、シンプルかつ機能的な空間となるよう配慮している。1階と2階の造りは全く同じにしており、利用者と職員ともに混乱しないよう配慮されている。食堂と居間は分かれており、利用者は自分の過ごしたい思い思いの場所で過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 事業所内の空間ごとに椅子を複数設置して一人ひとりが自由に過ごせるような環境づくりに配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居前に持参品の参考リストを渡し、使い慣れたものを持参するように依頼している。馴染みのタンスや布団、仏壇などを持ち込んでもらい、少しでも安心して安らぐことのできる空間づくりをこころがけている。</p> <p>(外部評価) ベッドは今後の利用者の身体状況の変化を見越して、事業所で準備している。居室にはタンス、食器棚、机、テレビなど利用者の思い思いの物を自宅から持ち込むことができる。壁には家族写真を飾ったり位牌を置くなど、利用者にとって大切な落ち着きのある空間となるように工夫している。マットタイプのナースコールが設置されており、必要な利用者には使用できるようにしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの「できること」「わかること」を活かすために椅子等の家具や生活物品を配置場所を配慮している。今後も定期的に見直しを実施し安全かつ自立した生活がおくれるように工夫していきたいと考えている。</p>	